

### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

## ユネスコ50周年

### 文部大臣表彰に想う

昨年十一月一六日に開かれた50周年式典で全国のユコ協関係者九二人、広島ユコ協から三人の方が文部大臣表彰を受けられました。

### 42年間の道のり

永井滋郎

平成七年十一月十六日、東京の国立教育会館虎の門ホールで皇太子殿下ご夫妻来臨のもと、外務省、文部省、日本ユネスコ国内委員会共催で挙

行されたユネスコ50周年記念式典において、ユネスコ活動功労者の一人として文部大臣表彰を受け、誠に光栄に存じています。



（広島ユネスコ協）元会長  
 広島大学 元教授  
 広島県 元協理  
 広島市 元市長  
 元広島大学 元教授  
 元広島市 元市長

昭和二十八年以来四十二年間のユネスコ及び民間ユネスコ活動とのかかわりが、一応評価されたのではないかと考えております。特に、国際理解教育のためのユネスコ協同学校計画への参加、並びに日本ユネスコ協会

がその主なものではないでしょうか。しかし、いずれも私一人の働きではなく、故内海巖先生をはじめ多くの方々のご指導、ご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

### 国際映画祭の事

松原博臣

私がユネスコ活動に関り合ってきた動機は、PTA活動でご懇意になった故内海巖先生のお勧めによるもので、昭和五十年頃であったと記憶しています。

当時は会員も五十名に満たないで台所事情も苦しく、永井滋郎会長の奥様に事務局のお手伝いをお願いした時期も

あった。



（広島ユネスコ協）元会長  
 広島市 元市長  
 元広島大学 元教授  
 元広島市 元市長

然し永井会長は意気軒昂たるものがあり、私も昭和五十一年四月にバリのユネスコ本部で開催された第一回日本文化祭には、当時始まったばかりのヒロ

シマ国際アマチュア映画祭の優秀作品の上映を目指し、上京して日ユ協連の役員・専門委員諸氏と鋭意折衝し、その実現をはかった。会長在任時代再びバリ

日本文化祭開催に巡り合い、ツアーを組んで大挙見学にと意気込み、映画祭受賞作品をユネスコ本部で上映することが出来た。

この度受賞の栄に浴し面映ゆい感もあるが、会員諸氏のお力添えに改めてお礼申し上げます。

### 広島の胎動

沖原豊



（広島ユネスコ協）元会長  
 広島大学 元教授  
 広島市 元市長  
 元広島市 元市長

私が広島文理科大学教育学科に入学したのは昭和二十三年四月、その年の七月に学生自治会

が、全学連を脱退した。

それ以来、学生の政治的活動が沈静化し、ユネスコ、社会科学研究会、YMCA、国際連合学生協会、エスポワールなどの諸団体を網羅した広島大学平和問題研究会なるものが、前学長の長田新先生、皇至道先生などのご指導の下に結成された。

同じ頃に、社団法人日本文化平和協会が設立され、長田新先生が会長になられ、「恒久平和論」などが出版されている。その中に、森戸辰男学長が執筆された論文も収録されている。ところで、その当時は「平和

国家」が合言葉になっていた。こうした状況の中で、我が国が国際社会に復帰するためには、まずユネスコに加入しようとする民間運動が盛んになってきた。広島学生ユネスコクラブもその全国的な運動に参加した。

当時は、「戦争は人の心の中に生まれるもの」というユネスコ憲章の前文が、とても新鮮に感じられたものである。

なお、広島学生ユネスコクラブには、広島大学、広島学院大学、広島女子大学などの学生が加わっていた。文部大臣表彰を受賞するに当たり懐かしく思い出される。

# 新時代の人づくり

広島県教育長 寺脇 研



広島ユネスコ国際交流サロンは、一月二七日、ゲストに寺脇研広島県教育長を迎えて、「新時代の人づくり」と題してご講演いただいた。以下はその抄録。

現在、いじめを理由として生命を絶つ子どもが出てきているなど、いじめ問題がクローズアップされている。深刻で由々しい問題である。

生命を守るためには、私達の教育観、社会観を根底から変えなければならぬ。大人は、「今の子どもはよくわからない」と言うが、それは、そのように育てた社会の責任、私達の責任である。子どもたちの心が蝕まれる社会を変えるには、大人が変わらなければならぬ。

今のいじめは陰湿であると言われるが、正確に言うと、潜在化して見えにくくなっているということがある。

その原因は、大人が均質性を尊ぶあまり、教科の成績を全ての子どもに優先して一つ

の価値観を尺度として測るため、子ども達がみんな同じ方向を向くように仕向けられてきているからである。人間の生き方の枠組みが非常に狭まっているからである。

これからは、いろんな生き方を認め合うという社会に変わっていくべきである。ここに生涯学習の考え方が浮上してくる。

## 生涯学習社会

学校づくりに全力を尽くすが、どうしても学校へ行けない場合、通学を強制することは出来ない。

教育機関が学校しか無く学校に行き外したら勉強出来ない時代とは、今は違う。「いつでも、どこでも、だれでも学べる」というのが、生涯学習社会である。この前提があれば、学校にどうしても来れない時は来なくて良い。

子ども達は百年の人生を生きるわけだから、その間に学ぶ機会はある。今、死んだりしたら、後が無い。その時に緊急避難的

に学校に来なくてもいいと言っ  
てあげなければならない。それを  
社会が許容することである。

大人の生涯学(楽)習は楽しく  
習うことである。であれば、  
子どもも楽しく習う権利がある  
はずである。一方的に受験にか  
こつけて叩き込まれる授業であ  
ってはならない。

夢も目的も持たずに学校へ行  
く。それでいて勉強しろと言わ  
れたら、疲れ、絶望する。夢の  
実現のために勉強する、その先  
に何があり、何の人生があるの  
か、それが見えないと苦しさに  
耐えられなくなる。

そこで、子を持つ親は自己変  
革を迫るとともに子どもにとっ  
て本当の幸福とは何かを考えて  
貰いたい。二十代、三十代の親  
が育ってきたような豊かな時代  
はいつまでも続かない。日本が  
世界に爪弾きされず、若者が駄  
目になってしまわないために教  
育をどう変えていけば良いの  
か。

戦後教育は「五十年生きる日  
本人を育てる」ことを想定して  
きたが、これからは「百年を生  
きる地球人」を育てねばならな  
い。

したがって、生涯学習の理念  
に立った教育改革として新しい  
学力観に基づく学校教育の相対化

ということを提案する。

学校教育というのは絶対的で  
なく相対的なものである。

学校は、多くの人にとって、  
最も効率よく勉強できる場所  
である。

しかし、そうでない人もいる。  
生涯学習時代、学校以外の所で  
勉強することはいくらでもある  
わけで、その意味で、学校教育  
は、相対的なものである。学校  
絶対化のため、家庭や地域の教  
育力が低下した。学校を重視す  
るから何もしなくなった。

学校を相対化していることの  
最も象徴的なことは学校五日制  
である。子ども全体の力はト  
ータルとしては五日制の方が付  
く。一つのことには偏しない多様  
な力が付く。

このような新しい教育を受け  
た世代である小学校四年生が十  
年、二十年経つと日本がどう変  
わるか楽しみである。21世紀初  
頭には食糧、環境破壊で地球は  
深刻になると想定されている  
が、彼らはそれに対応出来るで  
あろう。その時は学校も社会も  
変わってくる。変わらなければ  
未来は悲惨だと思わざるを得な  
い。

今までの人づくりは日本の産  
業社会を支えることだけを考え  
てきたが、これからは日本の産

業構造に対応した人間を育てる  
のではなく、地球全体、世界の  
産業構造に必要な人間を育てな  
ければならない。世界に門戸を  
開き、人材を地球全体に供給し  
ていく人材供給立国として、ま  
た地球の中の教育機能を分担し  
ていくような教育改革を推進し  
ていくことが時代の要請であ  
る。

## 地球的視野を

これまで進めてきた教育改革  
は国民総意の支持を得たもので  
あり、この生涯学習社会をつく  
っていくという考えに立って、  
いままでの学歴偏重や記憶力、  
知識重視の考え方を捨てて地球  
人として通用する長寿化社会の  
人間をつくっていく。

広島県の教育理念は日本でも  
最高で、成果はまだ最高とは言  
えないが、改革の機運は盛り上  
がっている。本来、教員は改革  
を好むものであり、教育改革に  
かかわるビジョンについて、彼  
らは目を輝かせて日夜を分かた  
ず努力してくれる。私たちが努  
力すれば、それは報われると確  
信する。

二十一世紀の百年を生きる地  
球人としての子どもを育成して  
いきたい、と考えている。

# 「他者のために生きる」 寺小屋運動と広島学院中学校

「広島学院中学校生徒会」の文字が、日本ユネスコ協会連盟発行の機関紙「ユネスコ」二月号紙上（募金協力者一覧）の「ユネスコ寺小屋運動」欄に記載されていました。広島学院のほかに広島県からの募金者として国際ソロプチミスト尾道、国立畑病院などの名も見えました。

足下から鳥が飛び立つ思いと言つたら大げさでしょうか。私自身、ユネスコが国際的に進めている識字運動の一環として寺小屋運動を展開していることは承知していましたが、そのような具体的なとりくみが、広島ユネスコ協会のお膝元で、また知らないところで実践されているとは。早速、広島学院を訪ねました。

広島学院中学校は生徒数約六百名。今回、寺小屋募金を推進したのは体育、広報、奉仕の各委員会からなる生徒会の奉仕委員会、奉仕委員会はこれまでユニセフ募金、フィリピン人のハンセン氏病院募金、黒瀬町の太陽の街への募金のほか学校周辺



道路の定期的清掃など活発な活動を展開しているとのこと。寺小屋運動募金を実施したのは、今回が初めてで、きっかけは日本ユネスコ協会連盟から送られた呼びかけ文書。早速、生徒会、奉仕委員会が意義と実施方法を討議して実行することを決め、日常になっていく先生と生徒と一緒に昼食をする昼休みに教室を巡回する募金活動を昨年十月の二週間展開しました。

「最初、生徒達には（識字）ということが理解できませんでした。が、本校にはスペイン人フィリピン人など国際色豊かなので、海外への旅は少し珍しくておまけに四十日間ということとで、会社に稟議書を提出して休暇を取っての旅立ちでした。工科系大学院に在籍していた二十名の若者と女性はたった二人だけというグループです。まず、フランスを二十日間のバス旅行、後半の二十日間で残りの六カ国を訪れました。パリを後にリオンに向かう途中、昼食に立ち寄った田舎のレストランで、一見して高齢の女

牧師、教員がおられますので、その方達が、文字を知らないということがどういうことになるのか、を具体的に話された。そこで生徒達が、文字を知らないということは大変なことだと理解出来たようです。（生徒会顧問植田信隆先生談。）

募金の趣旨は校内に浸透し、目標に見合った金額を本部へ十月、無事寄せることが出来ました。広島学院は、つとに進学校と

して有名ですが、同校の設立母体はカトリック・イエズス会。「他者のために生きる人間」を生徒の理想像として、「才能を伸ばし、その才能を他者のために活かせる、国際感覚を備えた人間育成」を目指しているという先生のお話は、まさに寺小屋運動に通底するものだ、だから広島学院のとりくみがあったと痛感しました。

（広報部理事・藤井孝行）

## 国際交流 私の場合

私の初めての海外旅行は二十七年前、1969年の四十日間ヨーロッパ七カ国（仏、独、伊、英、蘭、瑞、奥）の旅行です。当時、海外への旅は少し珍しくておまけに四十日間ということとで、会社に稟議書を提出して休暇を取っての旅立ちでした。工科系大学院に在籍していた二十名の若者と女性

はたった二人だけというグループです。まず、フランスを二十日間のバス旅行、後半の二十日間で残りの六カ国を訪れました。パリを後にリオンに向かう途中、昼食に立ち寄った田舎のレストランで、一見して高齢の女

性でテーブルを共にしました。グリム童話に出てくるような個性とテーブルを共にしました。また、その後81年に訪れたギリシアでは、エーゲ海クルーズでイギリスで印刷業を営むご家族と親しくなりました。この家族とも何枚か写真を撮り合って日本的なハンカチを差しあげてお別れしました。

フランスの老婦人にもイギリスからのご一家にも写真をお送りしましたところ、フランスの老婦人は私の写真を受け取って二日目に天国に召されたという

便りを娘さんから受け取りました。イギリスの家族とのギリシアでの出会いからはすでに十五年の歳月が流れましたが、写真をお送りのしたのをきっかけに今だに文通しています。

当時12歳だった長女キャロラインは27歳、9歳だった長男マシューは24歳、それぞれ結婚しました。毎年Xマスカードには必ず近況写真が同封されています。

旅行は国内、海外ともメニューメントや美術館、名所旧蹟を訪れるのが常ですが、旅を終えて脳裡に残っているのは、人びととの一寸したふれあいです。人生も旅。多くの人びととの出会い、ふれあいが多ければ多いほど、豊かな人生が展開するのではないかと思っています。



15年からの15人家族の集まり  
左側二人が長女キャロラインとキャプルのカップル  
右側二人が長男マシューとキャプルのカップル

# 姉妹協会、北京代表团 広島フルコース満喫

一九八八年締結された友好姉妹協定にもとづく相互訪問の第四回訪日団(龐团长以下左記七名)が、十二月七日来広、十日離広された。

- 龐万良 北京市教育局視学官
- 張芝 教職工休養院院長
- 王玉林 青少年科学技術館長
- 毕晓塵 平谷県教育長
- 劉京富 棉花幼稚園園長
- 馮国紅 教育局外事処課員

劉德齊 北京師範大学付属中学校 副校長

これに、日ユ協連から横手直子事務局長が随行。

▽八日(金)午前、広島市立養護学校訪問。生徒の作品を見ながら小西清彦校長(会員)から学校の概況を聞く。

次いで広島大学付属東雲小・中学校を訪問。

小学校長室に入ると早速児童の中国語歌詞によるコーラスで歓迎を受ける。

北川建次中学校長(常任理事)は前回の訪中団の团长でもあり、かつて北京大学からの招へい教授として一年間北京滞在の経験もあり、それらの体験を踏まえての応待ぶりであった。

次に広島市教育委員会に表敬訪問。森元教育長、中原社会教育部長、池田社会教育課長らと昼食会をばさんで懇談。

午後はマツダ本社訪問。ビデオで説明を聞いたあと工場見学。

流れ作業で次々に出来上っていく自動車の列に見入る。

この後、広島市交通科学館見



歓迎 中国フロックユネスコ研究会 北京教科文倶楽部協会代表团

〈歓迎会。右から川瀬啓子さん三人おいて伊東会長、龐团长、一人おいて永井広島県連会長〉

〈慰霊碑前で。一行と前左端日ユ協横手さん、後ろ信井副会長〉



学。今中圭介館長(理事)との懇談で北京側からの話題は専ら運営経費のこと。金額やら財源はどこからか(王青少年科技館長)など。

帰途はアストラムラインで暮れてきた広島夜景を眺めながら宿舎広島市国際青年会館へ。

夜は昨年度訪中団メンバーの北川建次、松岡盛人、国田繁広高ユ協役員三名を交えて伊東亮三広島ユ協会長招待夕食会。

▽九日(土)は松岡、国田両理事の案内でまず平和記念資料館見学の後、原爆慰霊碑に献花。その後、資料館会議室で高橋昭博常任理事から自らの被爆体験を、木村進匡常任理事から被爆の医学的影響の説明を聞く。

午後は前日からの強行日程の

息抜きを兼ねて、この度原爆ドームとともにユネスコ世界遺産に推せんされた宮島観光。夜は中国フロック、ユネスコ活動研究会の情報交換会に合流。

中国地区を挙げての歓迎レセプションとなる。

折しも研究会に出席の日ユ協連 村井理事長、清原組織部長らとも交歓することになる。

翌十日朝、竹沢臣子副会長らの見送りで一行は新幹線で京都に向かう。

(注) 今秋、第四回訪中団を広島ユ協から派遣する予定。

## 役員紹介

### 「すごい」広島

理事 沖本 博

アジア競技大会の開催前と後で市民の国際感覚がどのように変化するか―をテーマに、広島ユネスコ協会が調査研究を実施したのを機縁に、調査の手伝いとして協会に加入させていただきました。

調査の結果で最も心をうたれたことは、広島市民の平和への願いです。「広島市民はすご

い」と思いました。

この広島にある広島ユネスコ協会も、やはりローカルを超えて「すごい」のだと思います。それだけに、この度、役割をいただいたことに責任を感じております。本協会の長年の歴史と実績に学び、自分の役割を果たしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

### 高校生活動に力を

理事 藤原隆範

現在、勤務校で「世界史」を担当しておりますとともに、ユネスコ班の顧問をしております。本校のユネスコ班は、広島ユ

協会会長・現顧問の永井滋郎先生や現常任理事の太鼓矢晋先生、同じく常任理事の永田龍男先生らのご指導により、全国のユネスコ高校生活を常にリードしてまいりました。永田先生のご転任により、私が引き継いだわけですが、その際、広島ユネスコ協会の仕事も、との要請も受け、お引受けいたしました。若輩者ではございますが、何卒よろしくお願いいたします。

(広島大学付属中・

高等学校教諭)

# 高校生「つどい」・アクション

理事 藤原隆一 範

## ともに生きる

### 中国に学ぶ

去る二月二五日、広島大学附属高等学校を会場に、「第18回広島ユネスコ高校生のつどい」が開催されました。この「つどい」は、高校生に国際理解の精神を育成し、自主的活動のあり方を考えさせるために、毎年行われているもので、今年は「ともに生きるために——中華人民共和国に学ぶ」をテーマとして、二二名が参加して行われました。

9時20分開会。まず伊東会長より挨拶、続いて昨年度に実施されました「広島ユネスコ高校生海外研修」の報告にうつりしました。「海外研修」は今回で5回目を迎え、八月一七日から二六日まで中国を訪問し、これには、広島第一女子商業高校と広島大学付属高校の生徒、各四名が参加しました。

報告会は、まず、昨年の「海外研修」の様子を撮ったビデオを上映し、その後、各自の研究テーマに基づいた発表を行います。発表はスピーチと展示に

よってなされましたが、それぞれの研究テーマは「中国の衣食住」「中国の食文化」「中国の風土と文化」「中国の商店」「敦煌の歴史」「明・清時代の史跡」「敦煌・西安・北京の都市事情」「中国の音楽」と多岐にわたり、しかも今年は単なる見聞録ではなく、テーマに基づいた絞った発表が多く見られ、研修の深ま

### 第63回国際交流サロン

各界のベテラン、専門家をゲストに新鮮内外情報に接し、学び、交流を深める場「サロン」へ！

テーマ タンゴの古里ブエノスアイレスへ

とき 3月16日(土)

ところ 鯉城会館(広島市大手町一丁目)

ゲスト 山崎克洋(広島ユネスコ協会常任理事 広島市国際交流協会事務局長)

会費 千円

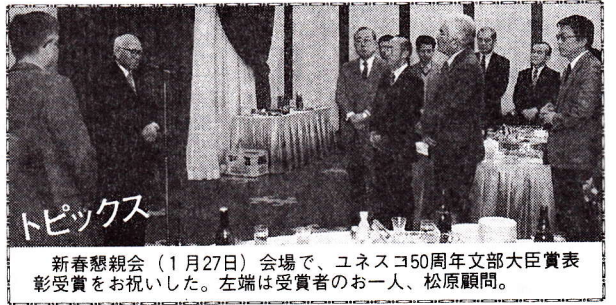
## 寺小屋募金カンパ、寒波

りを感じさせました。

昼食後、引き続き、「ユネスコ・コアアクション街頭募金」活動を行いました。「コアアクション」とは、ユネスコが途上国の教育振興と社会開発のために実施している運動で、毎年この「つどい」ではこの趣旨に賛同し、街頭募金活動を行っています。募金のテーマは昨年までと同様、「2000年までにすべての人びとに文字を」とし、世界寺小屋運動事業の支援のために行うことにしました。

当日はあいにく、冷たい雨が降りしきり、寒さが身にしみる一日でしたが、そうこうデパート前で、伊東会長自らが募金活動の先頭に立たれ、太鼓矢、永田両常任理事のご指導のもと、寒さにもめげず、元氣よく、道ゆく人びとに募金の協力をお願いしました。

あまりにも悪天候のため、募金活動は予定を変更し、一時間半で終了しましたが、それでも多くの方々から賛同をいただき、27,803円の募金が集まりました。これはすぐに日本ユネスコ協会連盟へ送りました。



トピックス  
新春懇親会(1月27日)会場で、ユネスコ50周年文部大臣賞表彰受賞をお祝いした。左端は受賞者のお一人、松原顧問。

## 95年度高校生海外研修 訪中報告書発行

今後とも国際交流の中心となるべき人材の育成をはかるため、尽力してまいります。

広島ユネスコ協会が過去五年間にわたって実施してきた高校生海外研修(多山報恩会援助)は、昨年、敦煌、西安、北京を巡って歴史と自然を学びました。このほど、その報告書(B5判60頁)が刊行されました。報告書は、高校生八名と引率者のレポートをまとめたもので「旅の報告」を遙かに越えた充

## 平和賞受賞 高橋昭博常任理事

実施したものです。高校生では中国の楽理・楽器の歴史と伝播を現地での見聞と考察を踏まえた「中国と日本の文化接点・音楽」(広島大学附属高校山本晶子)をはじめテーマを据えて追求した力作ぞろいです。

一方、引率者の広島ユ協役員の報告は、英語学、文学、世界史といったそれぞれの専門教師の分野での中国と日本の対比等学問・文化の深淵に至る報告となっています。

1月28日、ストックホルム市で行われた1995年エディタ/アイラ・モリス財団平和賞授賞式で、高橋昭博常任理事が平和賞を受賞されました。同賞は名のとおり地球上から戦争をなくし、平和を実現するうえで顕著な功績のある人に贈られる世界的権威のある賞で、今回の受賞は高橋常任理事の永年にわたるヒロシマの語り部活動が高く評価されたものです。

なお、受賞記念パーティーは四月二四日開催されます。(後日、案内状発送予定)

# 国際交流・協力テーマに 中国ブロック研究会開く

恒例の中国ブロック・ユネスコ活動研究会が、昨年十二月九・十の両日、広島市国際青年会館（広島市中区加古町）を会場として、中国五県各ユネスコ協会代表ならびに関係者約八十名の参加をえて開催された。

本年度の主要テーマは「国際交流・国際協力と民間ユネスコ運動——国際ボランティアリーダーをいかに育てるか」。

日程第一日は、13時よりの開会式に続き、講師として、昨年、中国・北京で開催された国連女性会議のNGOフォーラムに、広島市女性指導者海外派遣団



長として参加された川瀬啓子

（安田女子短期大学教授）を

お招きして、北京大会フォーラ

ムの目的や採択宣言、行動綱領

等、現状と課題についての記念

講演（写真上）。日ユ協連理事

長村井了氏の講義とビデオ「私

たちの生活、私たちの学校／イ

ンド編」ユネスコ・世界寺子

屋運動と世界遺産活動は今」の

あと、事例研究、各県からの発

表（写真下）が行れた。

岡山県からは、95おかやま国

際貢献NGOサミット、総合

テーマ「生存のための教育」を

中心に（岡山ユネスコ協会、

鳥取県からは、地域住民へのユ

ネスコ活動周知事業の紹介——

アジアユネスコ文化センターと

共催による写真展示、阪神大震

災募金活動、寺小屋運動募金箱

設置等（米子ユネスコ協会、

鳥根県からは、国際交流フェア

（95.10.14）の概要（鳥根県

ユネスコ協会）、山口県からは、

ユネスコ英会話教室（成人部）、

世界文化遺産パネル展（青年部）



文化センターを設立（東広島ユ

ネスコ協会）した取組みの報告

があった。この各県からの発表

にもとづいて質疑応答がなされ

たが、終始なごやかで、稔りあ

る話し合いが17時30分まで続け

られた。

18時から会場を厚生年金会館

に移して、情報交換会兼レセプ

ションを日中交流中国代表団

（七名）と中国留学生を招待し

て催し、盛会のうち20時、閉会

した。

日程第二日は、9時より、広

島ユネスコ協会常任理事高橋昭

博氏の講演「わたしの被爆体験

とヒロシマの心」。氏の体験談

を交えてのヒロシマの心とは何

かは、参加者に深い感銘を与え、

平和記念資料館を見学して、11時30分 閉会、解散した。

なお、中国ブロック・ユネス

コ協議会が、11時45分から、12

時30分まで、国際青年会館で開

かれ、来年度の中国ブロック研

究会の開催を岡山県と決定。

さらに中国ブロック協議会の会

則案が協議されたが、同案は各

県にもちかえることとし正式採

択は来年の同協議会にもちこさ

れた。

## 国際交流サロン(下半期)

61回 10月21日「フルート独

奏とトーク」広響客員奏者バブ

エル・フォルティーンさん（チ

エコ）。共演とトークのお相手

バイオリニスト中畝みどりさん。

62回 1月27日「新時代の人

づくり」寺協研広島県教育長。

## 日誌

12月7日～10日 北京ユネスコ

代表团来広

9日～10日 中国ブロック

ユネスコ活動研究会（広島

市国際青年会館・日ユ協連、

中国ブロック協、県ユ協共

催、県・市教委後援）

1月27日 新春懇談会

2月25日 ユネスコ高校生をつ

どい、ユネスコ・コアク

ション 伊東会長、ほか。

3月14日 ヒロシマ国際アマチ

ユア映像祭実行委員会 信

井副会長出席

16日 理事会

## 哀悼の意を 表します

藤森巖常任理事が、昨年12月27日、病気のためお亡くなりになりました。70歳でした。

氏は教職ご在任・ご退任後を通じてユネスコ活動に専心され、組織活動担当として全国大会、中国ブロック活動研究会などに積極的に参加され、また90年の北京アジア競技大会視察団（北京ユネスコクラブと交流）、94年に広島ユ協が編成した第2回パリ日本文化祭（於ユネスコ本部）参加など内外に向けた広い視野と行動力、そしてゆき届いた心遣いで広島ユ協の発展に貢献されました。